

# 標茶町議会第3回定例会

一般質問通告一覧

令和3年9月2日

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	鴻池智子	1. 学童保育に通じる道路に横断歩道を設置すべき	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童保育所は平成25年度より現在の場所に移動となり、約30人の子供達が利用しています。当初から学童保育所へ通う道路は、『危険箇所では』との事で町に対し横断歩道の設置要望があり、事故も数回起きていると聞いています。当初の相談が寄せられてからこの間、町としてこの問題に対してどう向き合ってきたか、また、子供の命を守るため道路状況の検証安全確保のために、今後どのように取り組んで行くのかを伺います。</li> </ul>	町長	
		2. 墓の維持に不安の無い合葬墓の建立を進めるべき	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、お墓の維持が困難との話を、町民の方から多く聞かれるようになって来ています。少子高齢化や子供達に負担をかけたくないとの理由からです。それにより合葬墓をとの町民の要望が高まっているようです。合葬墓に対しては、同僚議員より同様の質問がありました。身寄りのない人も納骨ができ、墓を引き継ぐ人がいない人も安心して利用できる町民墓のような合葬墓の建立に取り組む時がきているのではないかと考えるが町としての考えを伺う。</li> </ul>	町長	
10番	黒沼俊幸	町道西熊牛北幹線の改修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>生乳の集荷路線として磯分内ホクレンクーラーステーションは毎日360tの生乳を30台のミルクローリーが本州に送る集荷基地となっている。ここ数年、西熊牛北幹線の町道に急勾配の坂道があるため、釧路西港、苫小牧港、小樽港に時間が限られて走行するのに難渋している状況である。特に、クーラーステーションから1Kmくらいの所は、大型トレーラーの重荷で道路が凹んでいる箇所があり、ハンドルがとられるとの報告があります。2年前から改良を要望しているが、計画はどのようなになっているか。</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
8番	深見迪	1. 教員免許更新制は効果がなく弊害が多かったと考えるが、その評価を聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許更新制は、教育現場や教育関係者、全国市長会等の反対の声を押し切って2007年に法制化され、2009年から実施されてきたが、文部科学省は8月23日、教員免許更新制度のあり方を議論している中央教育審議会の小委員会に、この制度の廃止を柱とした「審議まとめ案」を示した。 この制度はいつ廃止されるのか。また、現在更新講習は実施されていないのか。</li> <li>・教員免許の資格があっても、10年ごとに大学などで30時間以上の更新講習を受講しなければ免許が失効するこの制度は、教職員の多忙化に拍車をかけ、退職教員の免許が失効することで産休育休などの代替教員確保の障害にもなってきたのが実態である。 更新講習の内容も「目新しい内容がない。いったい何のためにやったのか」など受講した教員からの声も報道されている。(道新) 免許更新講習は、教員の負担も深刻なものであった。 異常な長時間労働はいまだ改善されていない中、そのもとで自ら休みをとって受講し、受講料、交通費、場合によっては宿泊費まで自己負担するのが「更新講習」だった。 文部科学省の今年の調査では半数を超える教員が「廃止すべき・意義を感じない」と回答した。「審議案まとめ」も同様の見解を示した。 この制度は効果がなく弊害が多かったと考えるがどうか。</li> <li>・文部科学省の制度廃止方向の「まとめ案」の一方、教員の研修受講履歴の管理のため教員一人ひとりへのID(識別番号)付与も明記されている。そこでは、一定水準の研修を受けていないと教育委員会や学校管理職が判断した教員に対しては受講を命じ、従わない場合は、懲戒処分の対象とすることもあり得るとしている。 このようなことがあってはならないと考えるがどうか。また、教育現場での同僚教員との研修、町単位での研修こそ実りある研修と考えるがどうか。</li> <li>・今回の教員免許更新制度は、10年程度で廃止、いわゆる「ゆとり教育」も教育現場の声を無視し踏み切って結局は方針転換をせざるを得なかったこと、学習指導要領の改訂、教科書検定など、国が教育内容にあまりにも介入しすぎ、その結果次々に方針を変えざるを得ない状況をみると、教育の自主性が守られているとは思えないがどうか。</li> </ul>	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
8番	深見迪	2. デルタ株により10代以下のコロナ感染が急増しているが、ワクチン接種の予定はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標茶の自然を求め、観光客も本町に多く入っている。また、夏季休暇、お盆などを経て少なからず人流もあり、学校を中心に10代以下のコロナ感染が心配であるがどのような手立てをとっているか。</li> <li>さらに、学校での取り組みは、現在デルタ株が主流になっていることや、夏の子どもたちの動きなどに配慮したものに強化されているか。</li> <li>・ 三密を避ける取り組みはもとより、手洗い、マスクなどを含め指導を行っていると思うが、児童生徒の特別な活動、例えば部活動など配慮されたものになっているか。</li> <li>・ ワクチン接種の予定は出たが、このワクチン接種について、重症化阻止効果、効果の持続期間、副反応、また、12歳以下の低年齢層の安全性について、厚労省としてもまだ明確にしていらないと思うが、どのような情報を得ているか。法整備が行われているが、国によるワクチン接種勧奨と努力義務について問題を感じるが、町長の所見はどうか。</li> <li>・ ワクチンについて、従来型ワクチンと異なる遺伝子を体内に入れ、体内で抗原をつくらせるワクチンという初めての試みで実施されているが心配はないか。また、ワクチンのみではなく、大規模検査とセットで行うべきというのが多くの専門家の意見だ。特に学校関係はそうすべきと考えるがどうか。</li> <li>・ 8月23日羅臼町では1週間の感染者率が人口の0.48%のもと、町長名で「羅臼町まん延防止特別措置宣言」が出されたが、釧路市を含め、日常的に本町内外の人たちが往来する範囲で感染者が増加している。北海道も緊急事態宣言を地域限定ではあるが行っている。このような状況について、町外からの出入りが多い本町としてどのような対策を考えているか。</li> </ul>	町長 教育長	
		3. 内水氾濫防止の取り組みは進んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内水氾濫防止の取り組みを行っていると思うがその進捗状況を聞く。</li> <li>・ オモチャリ川の浚渫<sup>しゅんせつ</sup>効果はあったか。今後の予定はあるか。現在オモチャリ川は、今まであまり見なかった柳の木が相当の高さまで育っているが、対策は考えているか。</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	渡邊定之	1. バイオガス発電の見通しはあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省は7月エネルギー基本計画の改定案を公表した。それによると、温室効果ガス排出削減に向け2030年度の電源構成を見直し、太陽光など再生可能エネルギーの比率を現行の22%～24%だったのを36%～38%に引き上げる内容に修正した。菅首相も再生可能エネルギーを最大限導入したい意向を示した。ただ、見通しが立っていないが、原子力依存のエネルギーについては相変わらず20%～22%としてベースロード電源として位置付けていることについては、食糧生産を基本産業としている本町としては問題であると考えます。</li> <li>まだ閣議決定はしていないが、この経済産業省のエネルギー基本計画について、町長の所見はどうか。</li> <li>・本町では、まさに本町に合った再生可能エネルギーとして牛の糞尿を主原料としたバイオガス発電に取り組んでいるが、その進捗状況と見通しを聞く。</li> <li>・近隣自治体でも大掛かりな牛の糞尿を主原料としたバイオガス発電を行っていたが、約18年経過して、発電機が故障し設備の更新に多額の費用がかかることが主な理由として施設の廃止を決めたと報道された。本町のバイオガス発電構想についてこのような問題点、課題はないか。</li> </ul>	町長	
		2. ヒグマの牛被害に対する有効で早急な対策と補償を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町長の行政報告、また、一部報道でも明らかなようにヒグマによる牛への襲撃が後を絶たない。本町では、2019年から現在まで43頭、隣の厚岸町では9頭、合わせて52頭の死傷という被害が出ている。ハンターのみなさんをはじめ必死に対策が進められていると聞いているが、実態を聞く。</li> <li>・道立総合研究機構の体毛によるDNA鑑定によると、本町と厚岸町の牛を襲ったヒグマは同一である可能性が高いことが判明したと報道されている。今後、さらにこのヒグマによる被害は後を絶たず、人間に対する被害の危険性も予測されると考えるが、問題を起こしている個体の駆除を含め今後の取り組みを聞く。</li> <li>・襲われた牛の今後の生産量から考えると、補償されない大きな損害が発生するのではないかと考えるが状況はどうか。また、同じところへ放牧できないような事態が生じると考えるが、これまでの酪農経営にも大きな影響を及ぼすと考えるが、町長の所見を聞きたい。</li> <li>・現在行っている対策や今後の取り組み、さらに関係機関や北海道への要請活動、また、市町村の枠を超えた広域体制の取り組みが必要と考えるがどうか。</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
9番	本多耕平	保育所、保育園、小中学校の暑さ、コロナ対策にしっかり取り組むべき	<p>・近年、異常気象による自然災害が世界レベルで多発し、日本でも過去に記録のない降水量での水害や高温の日々が連続し、また、コロナ感染予防対策等、令和3年度の厳しい夏を国民は体験しております。</p> <p>本町においても、この夏は30℃を超える日々が連続し、次年度からも引き続きコロナ予防対策、暑さに対する施設整備を重要施策とすべきと考えます。</p> <p>子供たちが日々快適な生活ができる環境づくりのため次の3点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ対策事業で各施設に空気清浄機、網戸等設置したが、その効果を検証しているか。</li> <li>2. 暑さ対策、コロナ対策について各施設、学校へどのような指導をしてきたか。</li> <li>3. 今後、暑さ対策としてクーラーの導入を検討すべきではないか。</li> </ol>	町長 教育長	
4番	松下哲也	ふるさと納税の状況は	<p>・2020年度ふるさと納税は、寄付総額は全国で過去最高額になっている。釧路根室管内でも1町を除き寄付額が過去最高を更新していることが新聞報道された。自治体を応援するという制度が浸透し裾野が広がっている。また、コロナ禍で「巣ごもり消費」や何度も利用してくれるリピーターが大きいと分析している町村がある。本町は2019年度2,182万円、2020年度1億1,355万円となっていて前年度比5.2倍と大きな伸びとなった。</p> <p>しかし、近隣町村と比較すると、ふるさと納税に取り組むことが遅かったということもあるが、まだ、数字的にはもう一步と思わざるを得ない。コロナ禍において、今年度途中のふるさと納税の状況を目的別に伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラウドファンディングの状況</li> <li>2. 企業版ふるさと納税の状況</li> <li>3. 一般のふるさと納税の状況</li> <li>4. ふるさと納税サイトは何か所に参加しているか</li> <li>5. 返礼品に参加している事業者は何件か</li> <li>6. 今後、ふるさと納税により得た浄財は透明性を図った利用がされるべきと思うが、どのような形で活用していくのか伺う</li> <li>7. 釧路町のコンブを活用した牛肉の開発も始まっているが、今後も返礼品の開発に対して事業者も含めて協力関係を維持していくべきと考えるがいかがか</li> </ol>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
6番	鈴木裕美	1. 歯科予防事業に影響はないか	<p>・本町の歯科医院は昨年末に1医院が廃業し2医院となった。このため、申し込みから受診まで多くの日数がかかることもあると聞いていて、歯科医院の増設を望む声があがっている。現在の状況を町長はどのように認識しているか伺う。</p> <p>町は健康増進事業として歯周病検診を平成29年6月から実施、また、3歳児歯科検診や児童生徒の歯科検診等を実施しているが、1医院の廃業がこれらの事業実施にあたり影響が出ていないのか伺う。</p> <p>小・中学校内での事故（ケガ）により、歯科医院の受診をするケースもあると聞くが、実態を把握しているか伺う。</p> <p>将来を見据えて歯科医院の誘致に取り組む考えはないか伺う。</p>	町長 教育長	
		2. 新型コロナウイルスデルタ株感染予防の対策について	<p>・現在、新たな変異種、デルタ株の感染者数が増加し、ほぼ置き換わったと考えられている。感染症が若年層に急増しているが、次の点について聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 65歳以上の高齢者へのワクチン接種は7月中でほぼ終了するといわれていたが、状況はどうか</li> <li>2. 64歳以下の接種について9月、10月の集団接種の予約受付が広報されている。9月予定での接種可能数は何回か</li> <li>3. すでに接種を終えた方を含めどのくらいの接種見込みか</li> <li>4. 接種者の中で重症の副反応と思われた方はどの程度いたか</li> <li>5. ワクチン接種は100%の予防効果ではないが、接種することで重症化はほぼ防ぐことができるといわれている。接種を希望しない町民への接種を促すため喚起が必要ではないか</li> <li>6. 緊急事態宣言を踏まえ小中学校におけるコロナ感染症への対応はどのようになっているか。感染は飛沫と空気感染といわれている。予防対策は3密を避けマスク着用や手洗いが有効とされているが、児童生徒の登下校を見るとマスクの着用無しがみられる。感染拡大への危機感を共有し対策への徹底を図ることが重要だ。</li> </ol> <p>町外からのウイルスを持ち込まないために各家庭の協力が不可欠で対策をPTA等と連携し保護者の理解と協力を呼び掛けるなど対策をとるべきと考えるがいかがか</p>	町長 教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
2番	類瀬光信	1. ヒグマによる乳牛被害について、駆除、防除、支援策は	<p>・通称「オソ18」による乳牛の被害が今年も発生し、当該牧野、農場では放牧中止を余儀なくされるなど深刻な事態となっている。被害は、2019年以降立て続けに発生しており、草地型酪農を推進する本町の酪農ビジョンに暗い影を落としている。</p> <p>問題の解決は、当該ヒグマの駆除以外にないのだが、狡猾な相手の前に未だ駆除に至っていない。</p> <p>今後も防除を徹底し、駆除の成功を待つことになるが、まったく先が見えない。駆除の継続、防除の徹底、被害者の支援についてこれまでの状況と今後について聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 駆除の経過と今後の方針</li> <li>2. これまでの防除策と成果、今後の対策</li> <li>3. 必要な支援、可能な支援は何か</li> </ol>	町長	
		2. 駅前商店街の活性化について	<p>・人口減少や中型店の郊外進出、消費の流出、通信販売に代表される消費動向の変化によって駅前商店街の活力が低下している。さらに、担い手不足も深刻化している。</p> <p>それに対して町づくりに関する各種計画では、具体的な内容はないものの既存商店街への集客が重要とし、商工会との連携が必要としている。</p> <p>一方、都市計画マスタープランでは、郊外に沿道サービスエリアを設定している。これは町長が公約に謳っている道の駅等が含まれると解されるが、既存商店街の賑わいを取り戻すことと矛盾していないか。</p> <p>また、将来に向けて駅前商店街を存続するためには水害対策が必須である。自然災害が頻発する昨今の状況から、本町にとって喫緊の課題であることは明白だ。水害対策の進捗状況、着手、完了の目途について聞く。</p>	町長	